ホンモノで体感！行ってみよう！八代城（やつしろじょう）

■「八代城（やつしろじょう）」とは

「八代城」は建武元年（1334）ごろから明治3年（1870）にかけて八代地域に築かれた3つの城の総称です。

初代八代城である**「古麓城（ふるふもとじょう）」**は、古麓の山上につくられた山城です。建武元年（1334）に後醍醐天皇の臣・名和義高が八代庄の地頭職を与えられ、八代を支配することになりました。正平3年（1348）には文献上に「八代城」（古麓城）の記述が確認できます。その後、名和氏と相良氏による八代支配をめぐる紛争が繰り広げられ、永正元年（1504）には相良長毎が名和氏を制し古麓城に入城します。天文2年（1533）、長毎の子義滋は、古麓に新城を築いて本拠地とし、城下に家臣団を集住させました。これにより、本格的な古麓城下町がつくられていきます。さらに義滋は、八代海にひらく球磨川河口の徳渕の津を利用して対外交易に乗り出しました。以降、天正10年（1582）に島津氏が八代を占領するまで古麓城を拠点とした相良氏の支配が続きました。

2代目八代城である**「麦島城（むぎしまじょう）」**は、戦国時代に小西行長によって築かれた城です。天正16年（1588）に豊臣秀吉から肥後国南部を与えられた小西行長は、古麓城を廃し、徳渕の津近くに石垣をもつ瓦葺の城を築きました。これは、石垣や瓦などをもつ城（織豊系城郭）として九州における早い事例のひとつです。慶長5年（1600）の関ヶ原合戦で小西行長が敗死すると、八代支配は加藤家にうつり、加藤家筆頭家老の加藤正方が麦島城の城主となりました。元和元年（1615）、江戸幕府によって、ひとつの藩にひとつの城を原則とした、いわゆる「元和の一国一城令」が発令されます。肥後国では、宇土城や佐敷城、水俣城などが廃城となる中、麦島城は特例として存続が認められました。しかし、元和5年（1619）の大地震により麦島城は倒壊します。

3代目八代城である**「松江城（まつえじょう）」**は、大地震で倒壊した麦島城にかわって、麦島対岸に位置する松江村に新たに築城され、元和8年（1622）に竣工した城です。加藤家の改易後は、細川三斎（忠興）が隠居城として入城します。三斎の没後、正保3年（1646）には、細川家筆頭家老の松井興長が八代城主となります。以降明治3年（1870）の廃城まで松井家が代々在城し、現在に至ります。

---- 線は干拓の境です。

3つの「八代城」関係年表

南北朝時代～戦国時代

◆初 代「八代城」古麓城 1334年ごろ～1588年

建武元年（1334）	後醍醐天皇の臣・名和義高が八代庄の地頭職を与えられ、八代は名和氏の支配となる。
文明16年（1484）	相良為続が名和氏の本拠地である八代城（古麓城）を落城。
明応 8 年（1499）	相良為続、肥後国守護菊池能運らの攻撃により八代を撤退。名和氏が再び八代に復帰。
永正元年（1504）	相良長毎が古麓城を占拠し、名和氏は宇土に退去。
天文 2 年（1533）	相良義滋、古麓に新城を築く。
天正 9 年（1581）	相良義陽、島津義久の攻撃を受けて降伏。翌年から八代は島津氏の支配となる。
天正15年（1587）	豊臣秀吉、九州攻めの途中に古麓城に滞在。

戦国時代～江戸時代前期

◆2代目「八代城」麦島城 1588年～1619年

天正16年（1588）	豊臣秀吉、八代を小西行長に与える。行長は古麓城を廃し、球磨川河口の徳渕の津近くに麦島城を新築。
慶長 5 年（1600）	関ヶ原合戦にて小西行長が敗死。加藤清正、麦島城を占拠。八代は加藤氏の支配となる。
元和元年（1615）	江戸幕府が「一国一城令」を発令。麦島城は特例として存続が認められる。
元和 5 年（1619）	大地震により麦島城が倒壊（推定マグニチュード6.2）。加藤正方、麦島対岸の松江村に新城建設に着手。

江戸時代前期～明治時代初期

◆3代目「八代城」松江城 1622年～1870年

元和 8 年（1622）	加藤正方によって八代城（松江城）が竣工。
寛永 9 年（1632）	加藤家改易。12月、八代に細川三斎（忠興）が入城。
正保 3 年（1646）	三斎没（正保2年）後、細川家筆頭家老の松井興長が八代城主となる。これ以降、明治にいたるまで松井家が代々在城。
寛文12年（1672）	落雷で八代城本丸大天守、小天守などが焼失。翌年、大天守以外の再建に着手。
元禄元年（1688）	松井直之が母・崇芳院のお茶屋（別荘）として松浜軒を建てる。
宝暦 7 年（1757）	八代城二の丸に伝習堂と教衛場が設置される。
明治 3 年（1870）	松井盈之、八代城守衛の任を解かれ、八代城は廃城となる。

現代

平成26年（2014）	「古麓城跡」「麦島城跡」「八代城跡」「松井家墓所」「平山瓦窯跡」が「八代城郭群」として国指定史跡となる。
平成28年（2016）	熊本地震により、本丸北側の廊下橋門石垣の隅部が崩壊。八代市と八代市教育委員会が修復に着手。平成30年（2018）に竣工。
令和 4 年（2022）	築城400年をむかえる。

もとの八代城（松江城）のすがた

現在、私たちが目にしている石垣は八代城の本丸があったところで、元和8年（1622）に加藤家筆頭家老の加藤正方が築いたものです。この絵図は正保元年（1644）ごろの八代城のすがたを描いたもの。かつて本丸を囲む内堀のまわりには、二の丸、三の丸、北の丸があり、その外側には外堀がありました。城の規模は南北に811メートル、東西に1,477メートルをもちます。城下町には薩摩街道が通り、前川沿いには惣構えの石垣もありました。八代城は海陸の交通の要衝に立地するとともに、堅固な城であったことがわかります。

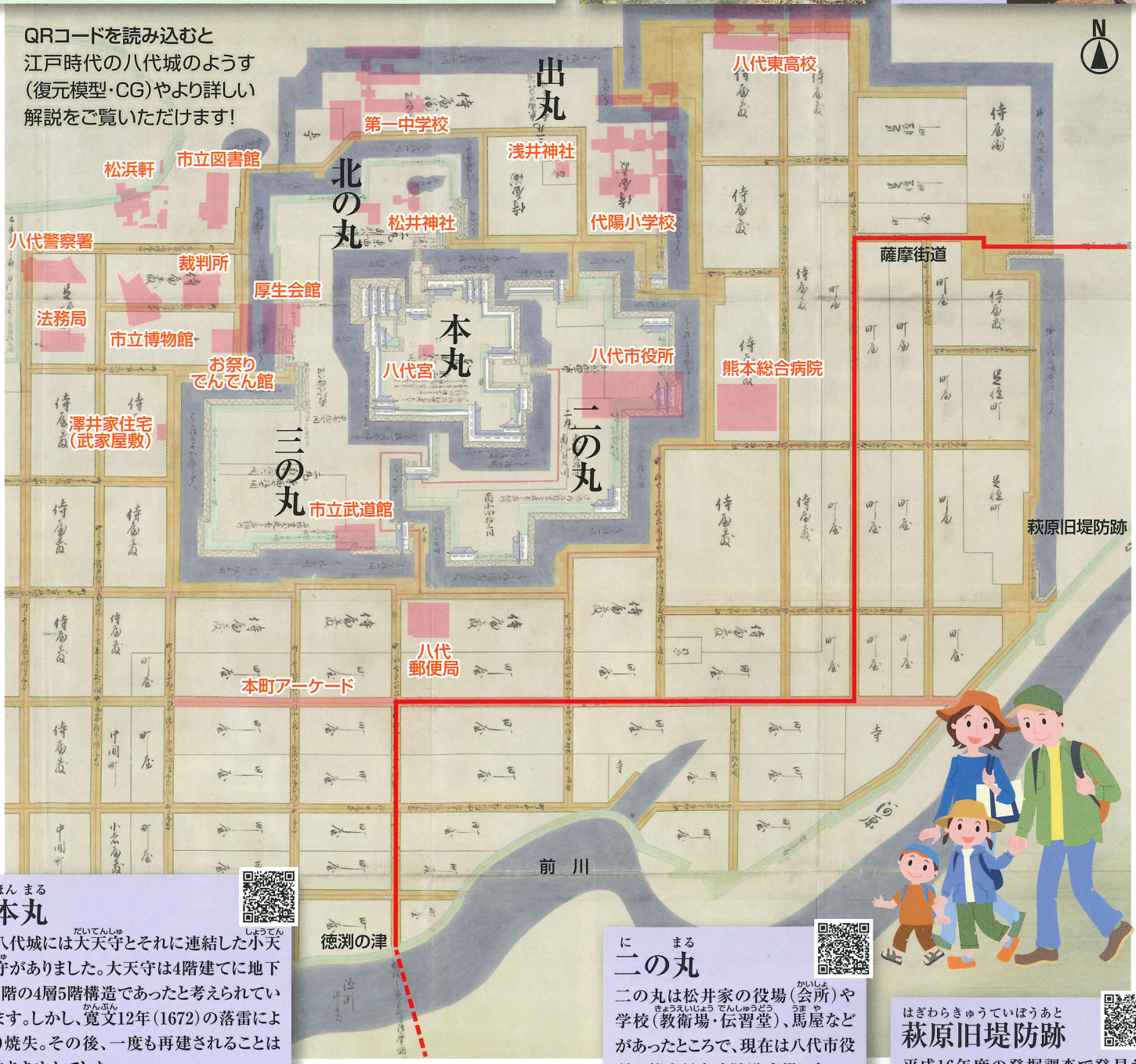
「肥後国八代城廻絵図」（部分・加筆）／国立公文書館所蔵

北の丸

北の丸は城主や一族の邸宅があったところで、現在松井神社が建っています。細川三斎時代の茶庭がほぼ当時のまま残っています。

出丸

出丸には細川三斎が織田信長を供養するために建てた泰巌寺という寺院がありました。今も信長供養の五輪塔が残っています。（第一中学校グラウンド内）



本丸

八代城には大天守とそれに連結した小天守がありました。大天守は4階建てに地下1階の4層5階構造であったと考えられています。しかし、寛文12年（1672）の落雷により焼失。その後、一度も再建されることはありませんでした。

現在、八代宮のある南側に本丸に入るための橋がありますが、これは明治時代、八代宮創建のときに新たに架けられたものです。

三の丸

三の丸は重臣の屋敷と永御蔵（米蔵）が置かれていました。永御蔵の門と番所は、現在春光寺（古麓町）に移され、その姿を見ることができます。

二の丸

二の丸は松井家の役場（会所）や学校（教衛場・伝習堂）、馬屋などがあったところで、現在は八代市役所や熊本総合病院駐車場になっています。熊本総合病院駐車場南側には、石垣の一部が残っています。また、本丸の東側にかけられた欄干橋が本来の本丸への入り口です。

萩原旧堤防跡

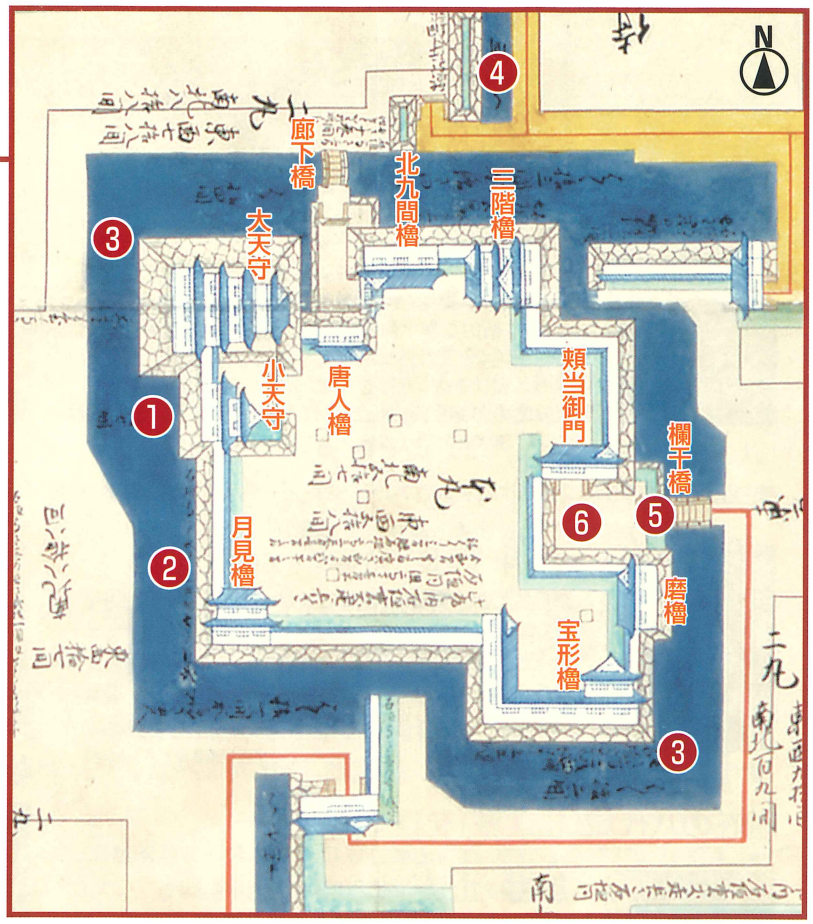
平成16年度の発掘調査で発見された惣構えの石垣。隅角部を持ち、敵の侵入を阻むためにつくられたと考えられています。（八代市立博物館に移築）

見どころいっぱい!

八代城の石垣

八代城石垣の三大ポイント

①地元で採れる石灰石を最大限に利用!
②石灰石に最適の野面積みを採用!
③より強度が必要な隅石は別の石材で造る!



お城の石垣の基礎知識。石材の加工の程度による分け方!

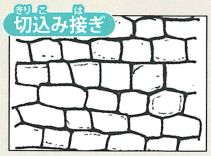
野面積み

自然石や荒割りした石をそのまま積み上げた石垣。

打込み接ぎ

荒割りした石材の表面をできるだけ平らにして石材同士の接合面を増やしたもの。

切込み接ぎ



方形に加工した石材を寸分違わず密着させて積み上げたもの。八代城では見られない。

❶お城の要 大天守・小天守

野面積み

大天守石垣は、八代城で最も高い石垣です。これに小天守の石垣が連結しています。最も高い石垣に大きな建物がのるため、角の石材はほかの部分より大きな石材が使われ、堅固なつくりとなっています。

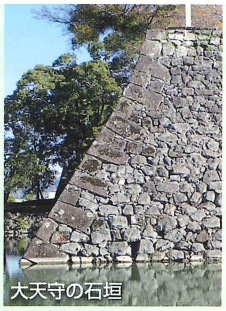
❷何度も修復された石垣

野面積み　打込み接ぎ

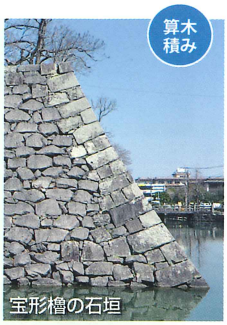
小天守から月見櫓の石垣では、少なくとも3度、石垣の大規模な修復が行われたことがわかります。築城当初の石垣は石灰岩の野面積み、1度目の修復では安山岩を使った打込み接ぎ、2度目では石灰岩の野面積みに戻っています。3度目の修復は昭和期に行われました。

❸進化する石垣

八代城本丸石垣の隅部は算木積みです。左は八代城で一番古い技法で積まれた大天守石垣。右は最も進化した宝形櫓の石垣です。宝形櫓の石垣は隅石が直方体に加工され、その隣の石も隅石と密着するようにきっちり加工されています。



大天守の石垣



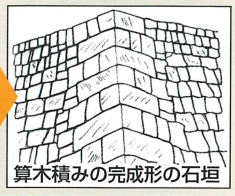
算木積み

宝形櫓の石垣

石垣の隅部を強固にした算木積み

石垣を築く上で最も重要なのが隅部。隅部にはより加工された石が使われています。算木積みとは、細長い石の長辺と短辺を互い違いになるように積み上げたもの。慶長10年(1605)ごろに完成した技術で、麦島城の石垣には見られません。

算木積みではない石垣



算木積みの完成形の石垣

❹実は古い!?北の丸の石垣

現在の松井神社の境内にあたる北の丸は、城主のプライベートな空間があったところで、本丸に比べて規模は小さいものの、築城当時の石垣がよく残っています。石垣裏の土居を見ることができるのも見どころです。

野面積み

❺正門の石垣は石材が大きい

江戸時代の八代城本丸の正門はここです。ここでは他の場所に比べ石垣は高くないにもかかわらず、大きな石材が使われています。城の顔として特別な場所であったことがわかります。

野面積み

本丸に入るのは大変!

本丸入口欄干橋を渡ると、先に進むためには頬当御門に向かって大きく右に進路を変えなければいけません。このような構造を枡形虎口といいます。お城の入口は敵の侵入を防ぐためにわざと複雑につくられているのです。

❻石垣に文字が!

八代城石垣のいくつかに文字や記号が刻まれた石材があります。本丸石垣のこの石材には「妙法」の文字が見えます。この一角には、他にも「一番三」や「三番三」と刻まれた石材があります。こうした刻印のある石材は、本丸だけでなく、二の丸や三の丸の石垣にも見られます。

3つの八代城の城主たち（　）内は生没年

古麓城を本拠地とし徳渕の津で対外貿易に乗り出す

相良 義滋（1489年～1546年）

相良長毎の子。相良家の内紛を制し家督を相続。古麓に新城を築き本拠地とした。城下に家臣団を集住させることにより本格的な城下町形成に至る。徳渕の津を利用して琉球王国などと対外交易を行った。天文4年（1535）、宇土郡の名和氏を破り豊福を奪還。天文14年（1545）、将軍足利義晴の名を賜り義滋と改める。翌年古麓城で没する。

「相良義滋画像」（部分）相良神社所蔵 人吉市教育委員会寄託

麦島城を築城したキリシタン大名

小西 行長（1558年～1600年）

京都に生まれる。海上交易に長けたキリシタンで、天正9年（1581）ごろから豊臣秀吉に仕える。天正16年（1588）、八代をふくむ肥後南部14万石の領主となり、古麓城を廃し、徳渕の津により近い麦島に八代城（麦島城）を築城。慶長5年（1600）、関ヶ原合戦にて敗死。

「小西行長銅像」（宇土城跡）

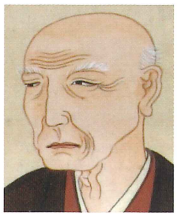
現在の八代城（松江城）を築く

加藤 正方（1580年～1648年）

加藤清正・忠広に仕えた筆頭家老。清正没後の慶長17年（1612）に八代城（麦島城）を預かる。元和5年（1619）、麦島城が地震で倒壊すると松江村に新城を築く。元和8年（1622）に完成。現在の八代城（松江城）である。

「加藤正方画像」（部分）浄信寺所蔵

妙見祭や八代の文化発展に貢献

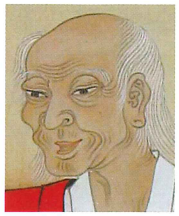


細川 三斎（1563年～1645年）

父・細川幽斎（藤孝）とともに織田信長や豊臣秀吉に仕えた戦国武将。妻は明智光秀の娘・玉（ガラシャ）。寛永9年（1632）に八代城（松江城）を隠居城として移り住み、八代城北の丸で亡くなる。和歌や能楽などに通じ、千利休に茶の湯を学んだ文化人。

「細川三斎画像」（部分）八代市立博物館所蔵

八代城主・松井家のスタート



松井 興長（1582年～1661年）

松井家初代康之の子。熊本藩主細川家の筆頭家老をつとめ、細川三斎没後は八代城（松江城）の城主となる。細川家5代にわたり支え続け、忠義を尽くした敏腕家老。興長以降、224年間にわたって松井家が八代城主をつとめた。

「松井興長画像」（部分）一般財団法人松井文庫所蔵

松井家歴代

3代 寄之 ― 4代 直之 ― 5代 寿之 ― 6代 豊之 ― 7代 営之 ― 8代 徴之 ― 9代 督之 ― 10代 章之

最後の八代城主

松井 盈之（1843年～1916年）

文久3年（1863）に家督を相続し、八代城主となる。明治2年（1869）に熊本藩大参事になるが、翌3年（1870）に八代城守衛の任を解かれ、松井家による八代支配が終わる。

「松井盈之画像」（部分）一般財団法人松井文庫所蔵

関連史跡

麦島城本丸出土軒丸瓦

松井家墓所（春光寺内）

松浜軒

本成寺の高麗門

春光寺および松井家墓所（国史跡）　古麓町971

春光寺は豊臣秀吉が九州平定の際に滞在した場所といわれる。境内には八代城主をつとめた松井家歴代の墓所（国指定史跡）がある。八代城（松江城）三の丸にあった永御蔵の門と番所（いずれも市指定建造物）が移築されている。

平山瓦窯跡（国史跡）　平山新町5824

加藤氏時代の麦島城の瓦を焼いた窯。加藤家の家紋である桔梗紋がある軒丸瓦や、加藤正方の家紋である酢漿草紋の軒丸瓦などが出土。

松浜軒（国名勝）　北の丸町3-15

元禄元年（1688）、松井家4代目直之が母・崇芳院のために建てたお茶屋。八代海を見渡す浜辺に近く、松林が連なることから「松浜軒」と呼ばれる。

本成寺の高麗門（市指定建造物）　本町1丁目10-24

慶長13年（1608）、加藤清正が早世した子忠正のために創建した日蓮宗の寺院。本寺の山門は八代城（松江城）の本丸にあった高麗門を移築。八代城本丸の遺構としてとても貴重。

◆編集／八代市立博物館未来の森ミュージアム　◆発行／八代市立博物館友の会　令和4年2月
◆お問合せ先／八代市立博物館未来の森ミュージアム　TEL0965-34-5555
◆HP／http://www.city.yatsushiro.kumamoto.jp/museum/index.jsp

博物館 HP　Twitter　Instagram